

第3学年英語科学習指導案

日時 2008年9月12日(金) 2校時
学級 盛岡市立下橋中学校3年3組
(男13名、女16名、計29名)
授業者 鈴木 泉

1 単元名と本時のタイトル

Unit 4 “An American *Rakugo-ka*” ~Reading for Communication
Oh, No! They're Cultural Differences!! —こんなトラブルにご注意! ?—

2 単元について

本単元は 英語の落語を題材とし、日米の文化の違いを考えることを学習する内容となっている。落語は日本の伝統的な文化の1つと言えるが、近年外国でもそのファンが増えてきていて、英語による落語も様々なところで試みられている。

本単元の **Starting Out** では、落語について紹介する英語の冊子で「扇子の使い方」を扱い、落語における小道具の扱いに触れている。また **Dialog** では、慎とカナダ人のエレンが週末に英語の落語を聞きに行くという内容について対話をしている。そして **Reading for Communication** では、実際の落語の小話が紹介されていて、その中で日米の文化の違いや、よくある言語表現の使い方の間違いをテーマにしている。p.42 では、レストランにおける注文の仕方についての日米の違いを、p.43 では、英語の“Excuse me.”と“I'm sorry.”の使い方についての失敗談を取り上げている。

言語の学習では、意味の違いを理解することと同時に、場面や人間関係などによる使い方を理解することも必要である。「すみません。」という日本語には、注意を引いたり、謝ったり、お礼を言うときにも使うことができる便利な表現であるが、その多義性から、使い方の間違いが起こってしまうことがある。普段何気なく使っている言葉の、正しい機能などについて考えさせるのに適した単元であると言える。

言語材料としては、「疑問詞+to 不定詞」「It...for~to+動詞の原形」を用いた文が導入される。身の回りの出来事について、自分や友達にとってはどうなのかなど、自己表現につなげやすい文型である。

3 生徒について

3年3組の生徒は、全体的に学習意欲があり、学力も高いほうである。英語にも意欲的に取り組んでいて、授業中は積極的に言語活動に取り組んでいる。

また家庭学習にも自ら取り組む生徒も多く、音読や教科書本文の視写を日常の学習として行っている。特に女子の方に英語に興味関心の高い生徒が多く、テストでも全体的に高い点数を取っている。

今年度4月に行われたNRT（全国標準診断的学力検査）の結果は次のとおりである。

領域別正答率（%）

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	計
3年3組生徒	80.7	75.3	83.3	71.2	77.6
全 国	62.5	61.5	66.7	53.1	61.0

全体的に高い正答率であり、4技能共にバランス良く伸びていることが分かる。しかし生徒個々に目を向けると、課題はいくつかある。

例えば数名の生徒は学習意欲が低く、英語の学力も不足している。言語事項のドリル学習や、タスク活動を行

う際には支援を必要としている。効果的な支援と英語の学習方法の指導が必要である。

また、思春期特有の“照れ”もあるのか、教科書の音読の際、英語の発音がカタカナ調になってしまったり、抑揚がつかない棒読みになってしまう生徒も数名いる。日本語と英語の違いを教えると共に、言語学習における音声の大切さについてより一層指導していきたい。

4 指導の構想

(1) 研究との関わりから

平成 19 年 11 月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会から出された「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」によると、外国語の課題として「中学校・高等学校を通じて、コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力が十分身に付いていない」「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分身に付いていない」などの状況が挙げられた。

それを受けて今年 4 月に告示された新学習指導要領の「書くこと」の指導事項の中には、新しく「語と語のつながり」や「文と文のつながり」などに注意して文章を書くことが示されている。

このことから本校英語科では、「英語を用いて考え、伝え合う生徒の育成」—効果的な「読み」「書き」指導を通して—という研究主題を掲げ、授業実践してきた。英語科におけるコミュニケーション能力を「英語を用いて考え、伝え合うこと」と定義し、その力を高めるために、まとまった英語の文章を「読み」そして「書く」指導が効果的であると考えからである。

さて本単元は「落語」がテーマである。Starting Out で落語についての導入、Dialog では英語による落語が紹介されている。生徒には新出事項である「疑問詞+to+動詞の原形」「It is ...(for~)+to+動詞の原形」について定着するよう指導すると共に、落語という日本文化について親しませたい。

また Reading for Communication では、実際の英語による小話その内容となっている。二編載っていて、ひとつは日本とアメリカの文化の違い、もうひとつは日本語の「すみません」が持つ意味の多義性がテーマとなっている。生徒には小話をじっくり読ませ、日本と欧米との文化の違い、あるいは英語と日本語の違いから来るおかしさを味わわせたい。

この単元におけるまとめの学習としては、教科書にある英語の小話のテーマ同様、日常生活における日本と欧米との文化の違い、から起こりうる失敗わトラブルについてのまとまった文章を書き、さらに口頭発表する学習活動を考えた。

「国際交流」という言葉が使われるようになってからかなりの年月が経っているが、交流しようとする国や民族同士による文化の違い、あるいは言語の違いからトラブルが起きたり、ギャップが生じたりすることは多々ある。そのような欧米文化と日本文化、の違いから来る「おかしさ」をテーマとした話を教科書の本文を参考にし書かせたい。またその際には「語と語のつながり」「文と文のつながり」に留意させ、また使用場面を明らかにしながら、読む者にその内容が伝わるようにさせたい。

(2) 生徒の実態から

生徒は 1 年生の頃から、日記や手紙など、まとまりのある英文を書くタスク活動を積み重ねてきた。そしてそれによって抵抗無く英文を書くようになり、その英文も正確さが増すようになってきている。

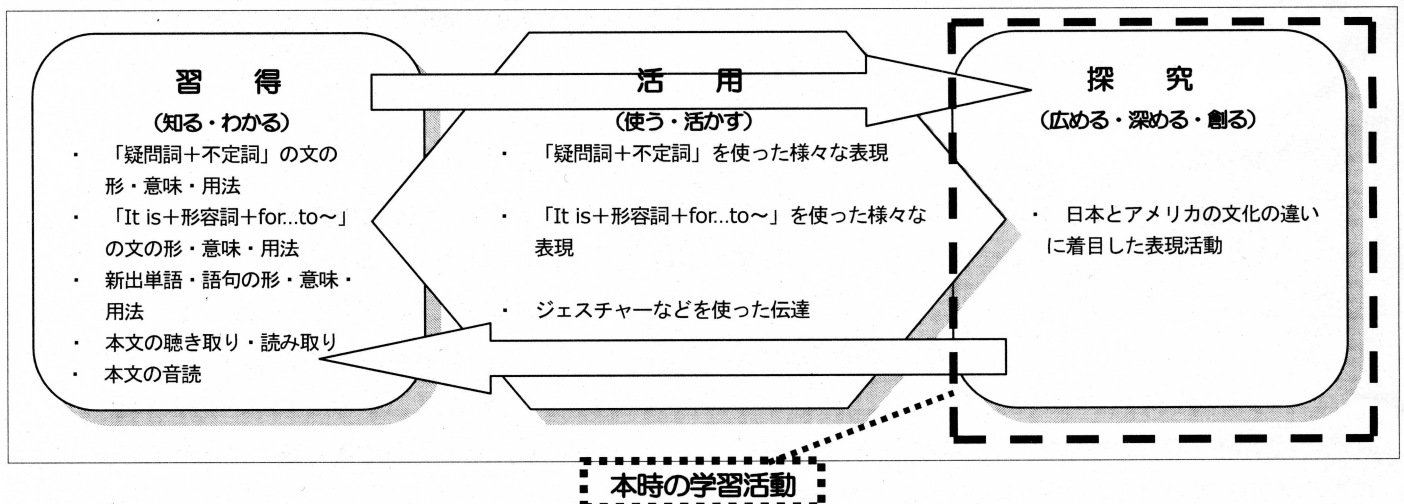
しかし単に文法上に間違いがないだけでは、英文の内容が読み手に対して正確に伝わるとは限らない。本当に読み手に伝わる英文とは、話題の一貫性や継続性を意識しながら、状況に応じて適切なものでなければならない。そういう面から考えると、生徒は本当の意味で「英語を用いて考え、伝え合う」ようになっているとは言えない。普段の授業の中で意識的にまとまりのある英文を書くタスク活動を取り入れ、そして書く場合にはその場面や読み手のことも意識させることが必要であると考え。

5 指導計画・評価計画

(1) 単元全体の評価規準

単元の目標	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
Unit4 An American Rakugo-ka ○ 落語の楽しさや英語の落語のユニークさなどを本文から読み取ることができる ○ 不定詞の特殊な用法（疑問詞+to不定詞、It is...to不定詞）を理解し、適切な場面で使うことができる	聞 く こと			
	<ul style="list-style-type: none"> 教師やCDの英語を聞いてうなずいたり返答しようとしていたりメモを取ったりして、題材内容に関心を持っている。 理解できないところがあっても、推測したり聞き返したりして聞き続けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 聞いた内容について正しく聞き取ることができる。 自然な口調で話されたり読まれたりした内容を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の特殊な用法を含んだ英文の構造を知っている。 落語や他の日本の伝統芸能について理解している。
	話 す こと			
	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを恐れずに英語で積極的に話している。 つなぎ言葉を使ったり言い換えたりするなどして話し続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 話そうとすることを聞き手に正確に伝えられる。 自然な速さや適切な声の大きさを話することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の特殊な用法を含んだ英文の構造を知っている。 落語や他の日本の伝統芸能についておおむね理解している。
	読 む こと			
<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に興味・関心を持ち内容を理解しようと意欲的に読んでいる。また場面に合った表現を工夫しながら音読しようとしている 意味のわからない表現が出てきたときでも、前後関係から意味を推測したり辞書を使ったりして最後まで読み進めようとする。また聞き手に意味がよく伝わるように音読しようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> 正確な発音や適切なイントネーションで本文を音読することができる。 聞き手に本文の内容を伝えられるように、場面に合った適切な表現方法を工夫して音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を正確に読み取ることができる。 落語の文化的な側面や日英の表現上の違いなどを読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の個々の音や文のイントネーション、場面に応じた強調の仕方などを正しく発音する知識がある。 落語の文化的な側面や日英の言葉の使用法の違いなどを理解している。 	
書 く こと				
<ul style="list-style-type: none"> 間違いを恐れずに、伝えたいことを英語で積極的に書いている。 表現できないことがあっても、既習の語句や表現で言い換えたり辞書で調べた新たな表現を使ったりしながら、伝えたいことを意欲的に書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容を正確な表現を使って書き表すことができる。 伝えたい内容をもっとも効果的に伝えられるように表現を工夫して書くことができる。 語と語、文と文のつながりを意識して書いている。 		<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の特殊な用法を含んだ英文の構造を知っている。 落語の文化的な側面や日英の言葉の使用法の違いなどを理解している。 	

(2) 単元における「習得」「活用」「探究」の学びの流れ



(3) 単元の指導計画

時間	パート	おもな学習内容	学習目標	評価規準
第1時	Starting Out	1 「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法について学ぶ。 2 落語での扇子の使い方について知る。	●「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	・「疑問詞＋不定詞」を用いて英文を作ることができる。(表現、言語知識) ・落語での扇子の使い方がわかる。(理解)
第2時	Dialog	3 「It is ＋形容詞＋for ... to」を用いた文の形や意味、使い方について学ぶ。 4 自分にとって簡単なもの・難しいものなど話し合う。	●「It is ＋形容詞＋for ... to」の文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。	・「It is ＋形容詞＋for ... to」を用いて英文を作ることができる。(表現、言語知識) ・自分にとって簡単なものなどについて話し合える。(表現)
第4時	Reading for Communication	5 日米の文化の違いの一例として、食堂で注文をするときの違いを知る。	●英語で語られる小話を読んで、内容を理解する。 ●言い方がわからないときにジェスチャーで意味を伝える。	・小話を読んで内容がわかる。(理解) ・ジェスチャーなどを使って、言いたいことを伝えられる。(表現)
第5時		6 「すみません」と I'm sorry. の違いを知る。	●英語で語られる小話を読んで、内容を理解する。 ●言い方がわからないときなどに、色々工夫し意味を伝える。	・小話を読んで内容がわかる。(理解) ・色々工夫し言いたいことを伝えられる。(表現)
第6時		7 日本とアメリカの文化の違いから起こる問題例を表す。	●日本とアメリカの文化の違いから起こる問題・失敗について、例を挙げて表現する。	・例を挙げ適切に英語で書き、またその英文を口頭で相手に伝えることができる。(表現)

本時

6 本時について

- (1) 主 題 日本とアメリカの文化の違いから起こる失敗例を英語で表現しよう。
- (2) 目標、パフォーマンス課題、ルーブリック

指導目標	評価目標	評価方法
① 日本とアメリカの文化の違いから来る失敗例を英語で書くことができるようにする。(表現の能力) ② 自分が書いた英文を口頭で発表できるようにする (表現の能力)	日本とアメリカの文化の違いから起こりうる失敗例やトラブルについて、積極的に辞書を使って書こうとする。またその英文を口頭で伝えるための練習を意欲的に行おうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度) 日本とアメリカの文化の違いから起こりうる失敗例やトラブルについて、英語で具体的に書いて表現することができる。(表現の能力) 日米の文化の違いから起こりうる失敗例やトラブルについて、英語で口頭表現することができる。(表現の能力)	◎ 「パフォーマンス課題」 「文化の違いからくる失敗例を英語で表現しよう」 日本とアメリカの文化の違いから生じるギャップについて、例を挙げながら英語で書く。またその書いた内容を、グループ内で発表と相互評価、さらにグループ内の良い例を、学級の前で発表する。

学 習 活 動	評 価 項 目	評 価 する 活 動 ・ 資 料	ル ー プ リ ッ ク			
			A	B	C	D
日本とアメリカの文化の違いについての英作文	関 心 意 欲 態 度	観 察 ワークシートへの作文 (シート確認)	積極的に辞典を使ったり、グループで協力し合って、できるだけ詳しく英文を書いた。	辞典を使い、グループで協力し合い、英文を完成させた。	英文を完成させた。	英文を完成させなかった。
日本とアメリカの文化の違いについての英作文	表 現	観 察 ワークシートへの作文 (シート確認)	適切な例が示され、語と語、文と文のつながりが適切である正確な英文を完成させた。	適切な例が示されて、読んで意味の伝わる英文を完成させた	日本とアメリカの文化のちがいを伝える英文を完成させた。	日本とアメリカの文化のちがいを伝える英文を完成させられなかった。
自分が書いた英作文の口頭発表	関 心 意 欲 態 度	口頭練習の観察	読めない語句は辞典で調べながら、スラスラ読めるように何度も読んで練習した。	読めるように何度も練習した。	読む練習が十分ではなかった。集中して練習しなかった。	全く練習しなかった。
自分が書いた英作文の口頭発表	表 現	口頭発表の観察 (発表)	発音や抑揚に気をつけながら、自分が書いた英文をスラスラ読んだ。	自分が書いた英文をスラスラ読んだ。	つまづきながらも自分が書いた英文を読んだ。	自分が書いた英文を読めなかった。

(3) 本時の構想

本時は、生徒が日本と欧米との文化から生じるギャップやトラブルを英語で表現することをねらいとしている。

生徒は前時までに英語の小話を読んできた。その小話の内容は2つあり、ひとつはレストランでの注文の仕方における日米間の違い、もうひとつは日本語の「すみません。」が持つ意味の多義性がテーマとなっている。

中学校に入って2年間以上英語を学習してきた生徒たちにとっては、十分読み取ることができ、そのおかしさがわかる内容である。単に意味内容を読み取らせるだけでなく、自分自身が英語を用いる上で、あるいは日本で欧米人に配慮すべき事項として留意させたい。

さて本時のテーマは、教科書にある小話のように、「日本とアメリカの文化の違い」を英語で表現することである。「言葉が持つ多義性」については、生徒にとって教科書に載っている例以外のものについては考えにくいと判断し、本時は「文化の違い」のみに焦点を当てることにした。

教科書の本文のように、言葉を適切に使用するのは時として難しい。文法事項の使い方が正しければ使い方も正しいというわけではない。「このような異文化ギャップがありうる」というものを、具体的な言語使用場面と共に考えさせ、英文で書かせ、最後に口頭表現をさせたい。

留意させたいのは次の各点である。

- ・ 言葉を使用する場面・状況を明確にさせる
- ・ コミュニケーションがうまくいかなかった様子がわかるようにする

生徒は前時までに家庭学習で、「アメリカと日本の文化の違い」を調べ、ワークシートにメモをしている。本時ではそのメモを見ながら、言語使用場面を5W1Hで考えさせ、それをもとに英作文させたい。

なお英作文の場面では辞典を活用させたい。英作文のような学習活動では教科書に載っている語句以外にも使用することが多いため、辞書を効果的に活用させることが必要である。未習の語句も使いこなせるようになるために、生徒は常に辞書をそばに置き、使用できるようにしている。本時でも辞典を使い、正確な英文を書くことを意識させたい。

また生徒は普段英語の授業で、英語の座席となって学習している。隣同士のペアや時には4人ひと組となって学習活動を行っている。英語の学習ではコミュニケーションのための言語活動が大切であり、そのためにもグループ学習は効果的と考える。ペアや小グループでの活動の中で互いに助け合い教え合う、協同的な学びを大切にしている。本時では、作品を書く場面で4人ひと組のグループとなり、表現がわからなくなったときは互いに教え合うよう働きかけたい。また完成した作品の発表はグループ内で互いに発表と評価を行い、さらに良い作品は学級全員の前で発表させたい。

(4) 展開

段階	学習内容	学習活動	欄	◎留意点	◆資料	☆評価
導入	○ Warm-up	1 Q-A TALK を行う (ペア) ① ペアで英語の質問・答えを言い合う ② 答える場合は2～3文でつなげて言う ③ すべて終わったら座って英文をノートに書く	5		◆ Q-A シート、視写ノート ◎ 答えに詰まったらペアで教え合わせる ☆ 英語で質問・答えを言い合ったか [観察] ☆ 答えは2～3文でつなげたか [観察] ☆ 英語の質問・答えを正しく書いたか [ノート]	
	○ 学習内容の確認	2 前時の学習事項と本時の学習課題を確認する	1			
日本とアメリカの文化の違いを表そう						
展開	○ 英作文による課題解決	3 課題の「英作文」を行う (グループ・個) ① 宿題で書いた「文化の違い」表を参考にする ② 英作文を行う際の留意点を確認する ③ 使用場面を5W1Hでメモする ④ メモをもとに英作文を行う	25	◆ ワークシート、辞典 ◎ 前時に確認した事項を想起させ、本時のルーブリックを確認する ◎ 英作文の書き方の例を示す ◎ 使用場面を明らかにさせる ◎ 辞典を使い、グループ内で教え合い協力し合うことを言う ☆ <u>英作文を完成させたか [表現の能力：ワークシートから]</u>		
	○ グループ内相互評価	4 グループ内発表会を行う (グループ) ① 完成した原稿を用い、グループ内で口頭発表する ② ルーブリックシートを用い、グループ内で相互評価する	10	◎ 優れた英作文・発表を行った生徒を2～3名ピックアップする ◎ ルーブリックの内容を確認する ☆ <u>自分が書いた英作文を口頭発表したか [表現の能力：観察から]</u>		
	○ 学級内でのシェアリング	5 学級内でのシェアリングを行う ① 原稿内容が優れていた生徒2～3名が口頭発表する ② どの点が良かったか共有する	6	◎ ルーブリックに基づいて評価する		
終結	○ ふりかえり	6 自己評価を行う ルーブリックを確認しながら自己評価を行う	3	◎ 活動について評価する		
	○ 次時の予告			◎ 次時の予告をする		